

令和8年度

全国学力・学習状況調査

恵那市の状況



恵那市教育研究所

恵那市における小学校国語の結果分析

恵那市教育研究所

調査結果

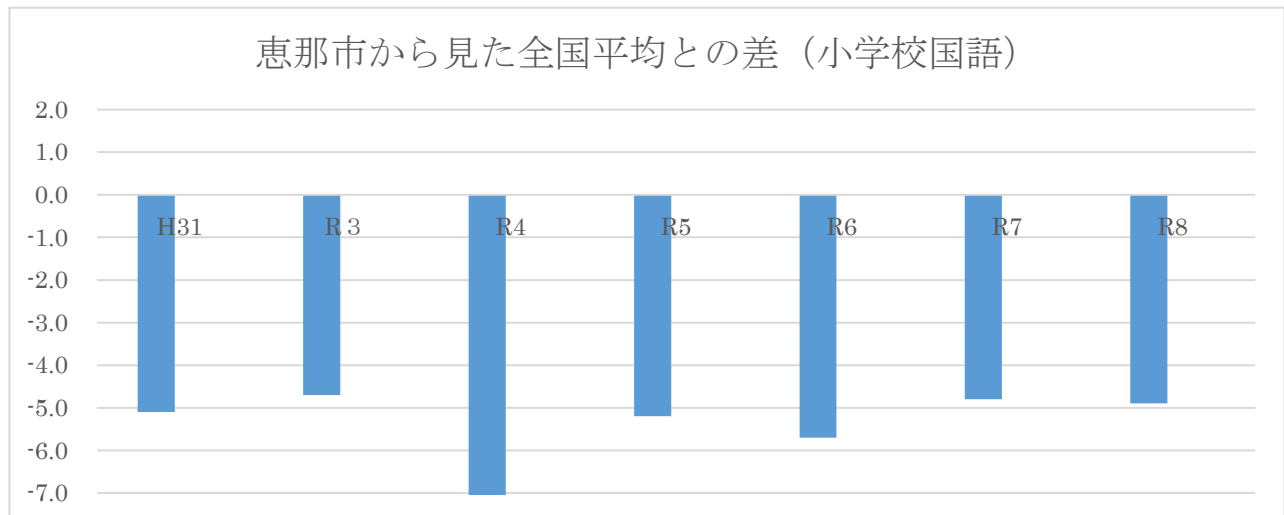
■ 平均正答率

- 恵那市 56%
- 県 59%
- 全国 60.9%【恵那市から見た国との差 -4.9】

■ 集計結果

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	岐阜県（公立）	全国（公立）
全体			13	56	59	60.9
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	61.5	66.0	66.8
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	2	51.1	50.7	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.2	63.8	65.8
		B 書くこと	2	35.8	43.5	45.7
		C 読むこと	2	60.0	63.9	65.9
評価の観点		知識・技能	6	58.0	60.9	62.0
		思考・判断・表現	7	53.6	58.0	60.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	57.8	60.1	61.9
		短答式	2	55.9	62.0	62.6
		記述式	2	45.5	53.2	54.9

■ 調査結果の概要



県及び全国との平均正答率を比較すると、県からは3ポイント、全国からは4.9ポイント下回っています。

学習指導要領の内容別では、「知識及び技能」の「情報の扱いに関する事項」は県の平均を上回りましたが、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」や「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」において課題が見られました。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

2三 恵那市の
ア、イ 平均正答率 ア **74.3%** (全国：80.0%) イ **37.5%** (全国：45.2%)

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_shou_kokugo_kkykf.pdf

■ 解答の傾向について

2三は、傍線部を漢字を使って書き直す問題です。設問アは「みじかい（短い）」という漢字を書く問題ですが、本市の正答率は74.3%で、全国平均を5.7ポイント下回っています。同様に設問イは「不思議」を書く問題で正答率は37.5%であり、全国平均を7.7ポイント下回っています。

学習した漢字を正しく書くというところに課題があることが分かります。

■ 学習指導に当たって

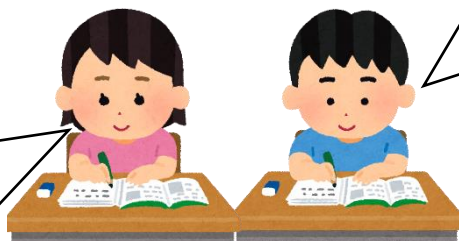
『学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う』

漢字を学習する際には、成り立ちや意味を考え、理解しながら学習すると、漢字の習熟に役立ちます。また、熟語としての使い方を確かめる際に、新出漢字だけでなく、既習の漢字も復習するなど、熟語として一緒に覚えることが大切です。さらに、生活ノートや授業のまとめなど、一定の分量の文章を継続して書く機会でも、学習した漢字を用いて書く習慣を身に付けると、漢字を忘れにくくなります。

昨今、一人一台端末が導入されたことにより、キーボード入力した後に漢字を選択して入力する機会が増えました。紙のノートに書く機会が減ったことを考慮に入れ、手書きする機会を精選したり、手書きとタブレットでの練習を組み合わせたりして、反復練習する機会を確保することが必要です。

この学習指導の工夫は、一昨年度から提案している方法です。このような取組は継続することで、正しく漢字を使う力を伸ばすことができます。引き続き継続することで、さらに力を伸ばしていきましょう。

漢字の成り立ちを理解しながら書くと、覚えやすいね。
この前に習った漢字は、この熟語でも使えるんだ。一緒に覚えておこう。



習った漢字は、授業でまとめを書くときや、生活ノートを書く時にも、面倒がらずに使うことで、漢字を使う習慣が身に付くね。

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

思考力、判断力、表現力等 C 書くこと

2四

恵那市の
平均正答率 **24.4%** (全国：33.4%)

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_shou_kokugo_kkykf.pdf

■ 解答の傾向について

問題形式が記述式で正答率が24.4%である2四は、本や文章などから必要な語句や文を抜き出したり、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にしたりして、自分の考えを書きまとめる問題です。

正答率の全国平均との差が9.0ポイント、県平均との差が6.9ポイントとなっています。以下は回答の類型ごとの割合と正答の条件です。

問題 番号	問題の概要	解答類型										
			1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	市	19.9	4.5	0.0	2.7	4.8	2.7	37.8		17.5	10.0
		県	26.8	4.5	0.0	3.8	5.6	5.5	31.9		16.3	5.6
		全国	28.0	5.4	0.0	4.4	6.1	5.3	29.2		16.5	5.2

(正答の条件)

次の条件を満たして解答している。

① 【集めた情報】の中から、以下のことを抜き出して書いている。

- a 本の題名
- b 本文の一部の内容

② 抜き出した部分をかぎ（「 」）でくくっている。

③ 涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。

④ 140字以内で書いている。

1〇	条件① a、bの両方、②、③、④を満たしているもの
2〇	条件① a、bの両方、③、④を満たしているが、条件②は満たしていないもの
3	条件① a、bの両方、②、③は満たしているが、条件④は満たしていないもの
4	条件① a、bの両方、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの
5	条件① a、②、③は満たしているが、条件① bは満たしていないもの
6	条件① b、②、③は満たしているが、条件① aは満たしていないもの
7	条件③は満たしているが、条件① a、bの両方、②は満たしていないもの
99	上記以外の解答
0	無解答

※4～7は条件④を満たしているかどうかを不問とする。

これらの結果を見ると全国や県の解答傾向と比較して、「無解答」だけでなく「誤答類型7」の解答が合計37.8%と多くなっています。このことから、題意に対する自分の考えをまとめられない児童ではなく、自分の考えは書けるものの、考えの根拠や説得力を増すための引用等を提示する方法が身に付いていない児童が多いことが考えられます。学習指導要領の指導事項である「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」が問われています。

また、他の記述式の問題も正答率が低いことから、一定量の文章を書くことに苦手意識をもっている児童も多いことが考えられます。

■ 学習指導に当たって

『目的に応じて、必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりする』

これまでの授業実践をとおして、提示された事実や資料から、課題に対する自分の考えをもつ力が育ちつつあることが分かりました。その考えに説得力をもたせるために必要な情報を見つけたり、文章に書きまとめる力が課題だったと言えます。

今後の指導に当たっては、自分の考えを文章に書く活動を行った後などに、交流の時間を位置付け、伝えたいことがより伝わるようにするための改善策について考えるなど、目的に応じた資料や論の進め方について考える場面をもつことが考えられます。

また、他教科も含めた日々の学習に、条件に応じて一定量の文章を書く活動が確保されているか授業の形態を振り返ってみることも重要です。

そうすることで自分の考えに合わせて論を進める力や、短時間で一定量の文章を書く力が身に付いていくと考えられます。

自分の考えを文章に書いた後に、伝えたいことがより伝わるようにするための改善策について考える活動が位置付いていますか。また、日常的に一定量の文章を書く体験が、学校生活全体を通して位置付いているか、確かめてみましょう。



恵那市における小学校算数の結果分析

恵那市教育研究所

調査結果

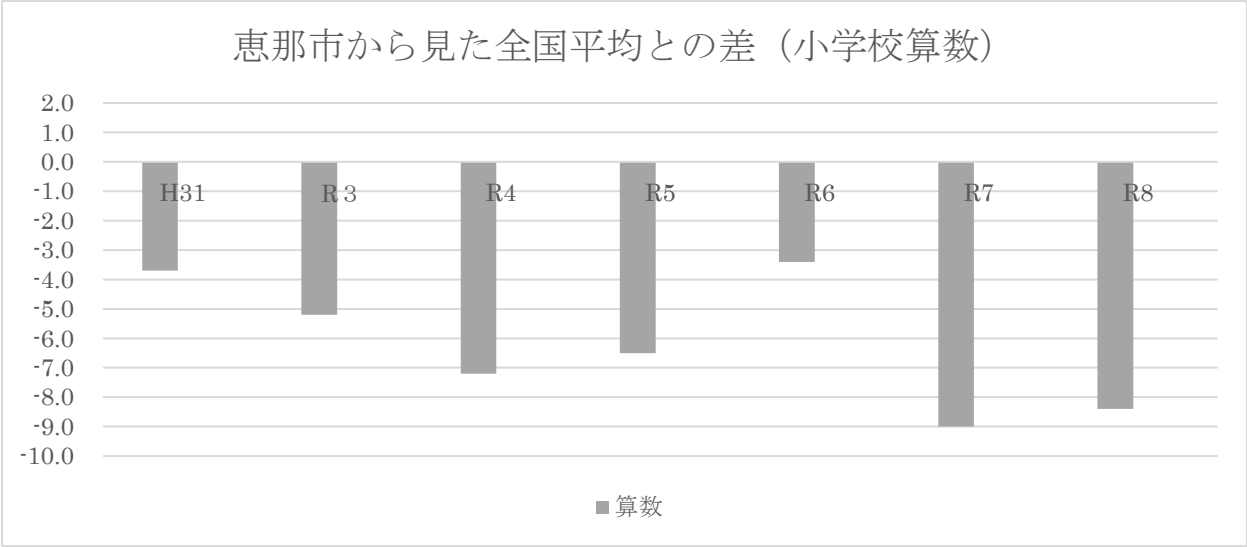
■ 平均正答率

- 恵那市 48%
- 県 54%
- 全国 56.4%【恵那市から見た国との差 -8.4】

■ 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	岐阜県(公立)	全国(公立)
	全体	16	48	54	56.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	50.9	57.8	61.1
	B 図形	4	48.0	53.7	55.3
	C 測定	1	71.4	76.0	78.1
	C 変化と関係	3	31.7	37.5	41.1
	D データの活用	4	39.7	46.1	48.6
評価の観点	知識・技能	12	52.0	57.3	60.1
	思考・判断・表現	4	34.6	42.4	45.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	45.5	52.9	56.0
	短答式	8	53.0	57.1	59.7
	記述式	3	37.1	45.3	48.5

■ 調査結果の概要



算数において恵那市では、県及び全国の平均正答率を下回る結果が続いています。学習指導要領の領域別に見ると、正答率が最も低いのが「C 変化と関係」で、県及び全国の平均正答率と最も開きがあるのが「A 数と計算」となっています。また、選択式や短答式に比べ、記述式の問題の正答率が、県及び全国の平均正答率と最も開きがあります。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

3(4) 恵那市の平均正答率 **50.6%** (全国：68.1%)

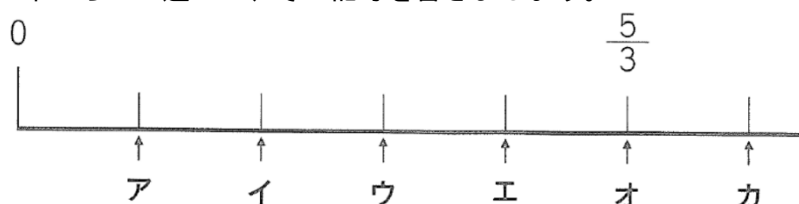
A 数と計算 知識・技能

数直線上に「0」と「 $\frac{5}{3}$ (オの目盛り)」が示されている中で、「1」を表す目盛りを選択肢（ア～カ）から選ぶ問題。

次の数直線でオの目もりは $\frac{5}{3}$ です。

1を表す目もりはどこですか。

下のアからカまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。



☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_shou_sansuu_kkykf.pdf

問題番号		類型	解答	正答	恵那市	県	全国
3	(4)	1	アと解答しているもの		24.7	17.2	15.6
		2	イと解答しているもの		9.6	7.1	6.6
		3	ウと解答しているもの	◎	50.6	65.5	68.1
		4	エと解答しているもの		3.6	1.5	1.4
		5	オと解答しているもの		0.6	0.9	1.0
		6	アと解答しているもの		6.0	3.8	3.9
		99	上記以外の解答		0.6	0.7	0.6
		0	無解答		4.2	3.3	2.7

■ 解答の傾向について

単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる問題です。

「A 数と計算」領域の知識・技能を問う問題において、恵那市の児童の正答率は50.6%であり、全国平均（68.1%）を17.5ポイント、岐阜県平均（65.5%）を14.9ポイント下回る結果となりました。本問は、0から「 $\frac{5}{3}$ 」までの間が5等分されていることに着目し、1目盛りの大きさが「 $\frac{1}{3}$ （単位分数）」を表していることを捉え、「 $1 = \frac{3}{3}$ 」であることから3目盛り目の「ウ」が正答であることを判断する問題です。誤答の傾向を回答類型から分析すると、数直線上で最も左端の目盛りである「ア」を選択した児童の割合が24.7%（岐阜県 17.2%、全国 15.6%）と、全国平均を9.1ポイント上回って突出している点为本市の特徴です。これは、仮分数「 $\frac{5}{3}$ 」が表す全体の構造（5等分された1目盛りが「 $\frac{1}{3}$ 」であること）を論理的に読み解く前に、0のすぐ右隣にある目盛りを見て「0の次は1である」と直感的に判断してしまったり、単純に「1目盛り＝1」と思い込んでしまったりしたことが要因であると考えられます。

■ 学習指導に当たって

分数における数概念の理解を、計算の処理手順だけでなく、数直線という視覚的な表現と結び付けて定着させることが大切です。指導にあたっては、分数を単に「分母と分子のペアの数字」として形式的に扱うのではなく、数直線上で「1」や「 $\frac{1}{2}$ 」といった基準となる数との位置関係を日常的に意識させるようにします。その際、「0の隣がいつも1とは限らないこと」を意識させるよう、1目盛りの大きさが異なる数直線を提示したり、児童自身に1目盛りが表す大きさを説明させたりして、直感的な思い込みから「1目盛りの大きさを論理的に確認する思考」へと繋げることが大切です。授業の中で児童が進んで数直線にかくように促し、教師が「もとにする数（単位分数）は何ですか」「『1』はその単位分数の何個分ですか」といった問い返しを普段から行い、数概念を構造的・視覚的に捉える活動を継続して位置付けていきましょう。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

1(4) 恵那市の平均正答率 **32.5%** (全国：45.2%)

B 図形 思考・判断・表現

日常生活の場面（宅配便の送料計算）を題材とし、お菓子4箱をまとめた「直方体イ」について、送料を決定する3辺の長さの合計（縦・横・高さ）を捉え、その求め方（計算プロセス）と最終的な送料（金額）を、言葉や数式を用いて記述する問題。

はやとさんは、図2のような直方体の箱に入ったおかしを宅配便で送ろうとしています。A社の宅配便で送るとき、直方体の荷物の送料は、3辺の長さの合計で決まります。

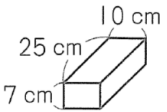


図2

A社の送料が右の表のとき、直方体イの送料は何円ですか。直方体イの送料の求め方を

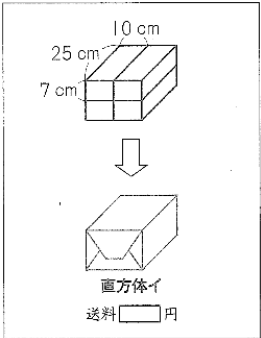
- ・ 3辺のそれぞれの長さ（縦の長さ、横の長さ、高さ）
- ・ 3辺の長さの合計

がわかるようにして、数や言葉を使って書きましょう。

また、送料が何円になるのかも書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。

A社の送料	
3辺の長さの合計	送料
60 cm 以下	920 円
60 cm より大きく 80 cm 以下	1210 円
80 cm より大きく 100 cm 以下	1510 円



（正答の条件）

次の①、②の全てを書き、送料を920（円）と書いている。

① 直方体イの3辺のそれぞれの長さ（縦の長さ、横の長さ、高さ）を表す数や言葉

② 直方体イの3辺の長さの合計を表す数や言葉

問題番号	類型	求め方	送料	正答	恵那市	県	全国
1	(4)	1 ①、②の全てを書いているもの	920(円)と解答しているもの	◎	32.5	44.0	45.2
		2 ①又は②を書いているもの			5.7	6.3	6.2
		3 図2の直方体の箱の3辺のそれぞれの長さや3辺の長さの合計を書いているもの			8.1	7.9	7.6
		4 類型1から3以外の解答 無解答			9.6	5.5	5.0

	5	①、②の全てを書いているもの ①又は②を書いているもの	920(円) 以外を 解答し ている もの		5.1	6.5	5.6
	6	図2の直方体の箱の3辺のそれぞれの長さや3辺の長さの合計を書いているもの			14.2	12.2	13.6
	7	直方体アと直方体イは図2の直方体の箱がどちらも4箱であるため、送料が同じであることを書いているもの	無解答		1.2	1.4	1.5
	99	上記以外の解答			14.2	9.8	9.4
	0	無解答			9.3	6.4	5.8

■ 解答の傾向について

図形を構成する要素に着目して直方体の3つの辺の長さを捉え、条件を基に求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

「B 図形」領域の記述式問題における恵那市の正答率は 32.5%であり、全国平均(45.2%)を 12.7 ポイント、岐阜県平均(44.0%)を 11.5 ポイント下回る結果となりました。お菓子箱を4箱(横に2列、縦に2段)重ねたときの「直方体イ」の縦・横・高さ(25cm、20cm、14cm)を正しく導き出し、その合計が 59cm となるため「60cm 以下」の送料区分(920 円)に該当するという論理を組み立てる必要があります。解答類型を分析すると、新しくできた直方体イの3辺の長さを求めることができず、元の図2のお菓子1箱(縦 25cm、横 10cm、高さ 7cm)の長さやその合計(42cm)をそのまま記述に使ってしまった児童(類型6)が 14.2%(岐阜県 12.2%、全国 13.6%)存在します。同様に、1箱分のサイズを用いて送料を 920 円と解答した児童(類型3)の 8.1%と合わせると、本市の児童の 22.3%(約5人に1人)が、重ねたことによる全体のサイズ変化を捉えられていなかったことが分かります。また、想定されていない計算手順や不十分な内容で誤答となった児童(類型 99：上記以外の解答)も 14.2%(岐阜県 9.8%、全国 9.4%)と、全国平均を 4.8 ポイント上回って高い割合で存在しています。

以上の結果から、「立体を組み合わせた(重ねた)際に、全体の縦・横・高さがどのように変化するか」という図形の構成的な変化を正確に捉えることに課題があると考えられます。

■ 学習指導に当たって

日常生活の課題を算数を用いて解決し、複数の条件を統合して論理的に説明・記述する力を高めることが大切です。

指導に当たっては、単に体積や面積を求める公式の学習にとどまらず、具体物(箱やブロック)を用いて実際に手を動かしながら「立体を組み合わせたときに、どの辺の長さが変化し、どの辺は変わらないか」を多角的に観察・確かめる活動を取り入れます。また、記述する際には「まず、～を求めます。次に、～だから、～になります。」といった説明の型(フレームワーク)を共有し、日頃からペアや小グループで求め方のわけを説明し合う対話的な活動を日常的に設定します。その際、「自分の出した最終的な数値が、提示された条件(料金表など)と正しく合致しているか、最後にもう一度見直して判定・確認する活動」を日常の振り返り活動に意図的に位置付け、思考した過程を正確に結論に結び付ける表現力を高めていきましょう。

恵那市における中学校国語の結果分析

恵那市教育研究所

調査結果

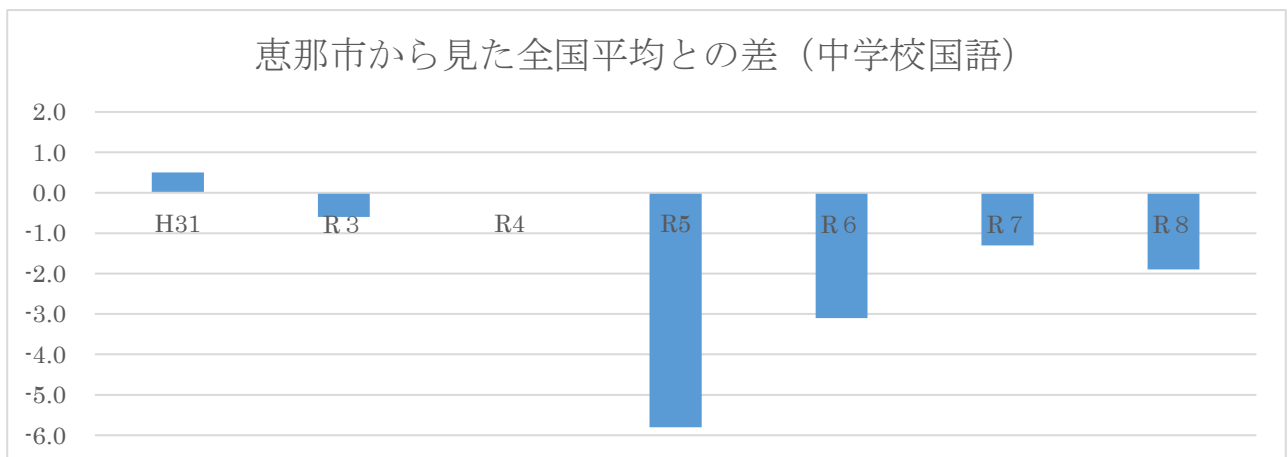
■ 平均正答率

- 恵那市 62%
- 県 65%
- 全国 63.9%【恵那市から見た国との差 -1.9】

■ 集計結果

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴教育委員会	岐阜県（公立）	全国（公立）
全体			15	62	65	63.9
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	60.2	63.3	63.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	68.4	72.7	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.7	63.9	63.9
		B 書くこと	3	68.2	67.8	67.4
		C 読むこと	3	59.1	61.2	59.7
評価の観点		知識・技能	6	61.6	64.9	64.2
		思考・判断・表現	9	63.0	64.3	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	70.4	73.2	72.7
		短答式	3	55.9	58.2	55.8
		記述式	3	44.9	48.7	45.5

■ 調査結果の概要



平均正答率の差を見ると、県との差はマイナス3ポイントで、全国との差はマイナス1.9ポイントであり、全国、県の平均正答率を下回る結果となりました。ただし、小学校6年生の時の結果と比べると、県との差は変わっていませんが、全国との差は3.3ポイント小さくなっています。

全国、県との差が大きかった分類を見ると、学習指導要領の領域別、評価の観点別に見た「知識及び技能」の「言語の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」において差が大きくなっています。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

1— 恵那市の
平均正答率 **78.4%** (全国：84.3%)

知識及び技能（１）言葉の特徴や使い方に関する事項

助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる問題。

☞ 設問の詳細はこちらでご確認ください。

https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_chuu_kokugo_kkykf.pdf

問題 番号	問題の概要	解答類型										
			1	2	3◎	4	5	6	7	8	9 9	無解答
1—	「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する	市	7.5	6.9	78.4	6.6					0.3	0.3
		県	4.9	4.1	84.7	5.8					0.2	0.3
		全国	5.3	4.2	84.3	5.9					0.1	0.2

■ 解答の傾向について

1—は、日常の言語活動の中にあるいわゆる「ら抜き言葉」を取り上げて、同じ助動詞の働きをしている解答を選択する問題です。本市の正答率は78.4%で、全国平均を5.9ポイント、県平均を6.3ポイント下回っています。県や全国と比較して、正答以外の「受け身」、「自発」の働きを選択している誤答者の割合が高くなっています。「それ以外の誤答」や「無回答」については、県や全国と大きな違いはありませんでした。

誤答にいたった原因を考えると、選択肢の傍線部のみに着目したために、文中の意味をとらえきれなかったことが考えられます。

■ 学習指導に当たって

『日頃から文法を復習する場面を工夫する』

今回のような誤答を防いでいくためには、文法の学習場面で正しく理解することに加え、日頃から文法について復習する場面を工夫する必要があります。例えば、「読むこと」の学習で、助動詞が加わった場合と加わらなかった場合の違いを比較して考え、文法について復習することができます。その際には、文全体から働きを捉えることで、助動詞の働きを理解しやすくなることを確認することも有効です。また、問題場面のように日常的に文法について質問する機会が確保できているか振り返ってみることも授業改善につながります。



日頃から文法について考える機会があることによって、働き方への理解だけでなく、文法に対する考え方も身に付いていくね。

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

2三	恵那市の 平均正答率	68.4% (全国：70.4%)	知識及び技能（２）情報の扱い方に関する事項
----	---------------	-------------------------	-----------------------

情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題。

👉設問の詳細はこちらでご確認ください。

https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_chuu_kokugo_kkykf.pdf

問題 番号	問題の概要	解答類型										
			1	2	3	4◎	5	6	7	8	9 9	無解答
2 三	話合いを受けて整理した タブレット端末の画面を 説明したものとして適切 なものを選択する	市	8.9	13.2	8.9	68.4					0.0	0.6
		県	7.6	12.4	6.8	72.7					0.0	0.6
		全国	8.1	13.8	7.4	70.4					0.0	0.4

■ 解答の傾向について

2三は話合いに含まれている情報の整理の仕方を理解し、実際の話合いの中で使うことができるかを問う問題です。本市の正答率は68.4%で、全国平均を2ポイント、県平均を4.3ポイント下回っています。県や全国と比較して、特に誤答者の割合が高い解答はありません。また「それ以外の誤答」や「無回答」についても、県や全国と大きな違いはありませんでした。

誤答にいたった原因を考えると、問題で求められていることへの理解が不十分なまま、選択肢の内容が問題場面と合っていたかに着目してしまったことが考えられます。

■ 学習指導に当たって

『他の学習と情報の扱いを関連させた学習を工夫する』

今回のような誤答を防いでいくためには、「話すこと・聞くこと」だけでなく、教育活動全般の中で、情報の扱い方について繰り返し学べるように工夫する必要があります。授業の発表資料を作成する際はもちろんのこと、少人数での交流をプリントにまとめる時や、学級活動で話し合った結果を板書に示す時などを、活用することが考えられます。また話し合った結果をタブレット端末を活用して分かりやすくまとめる機会が確保できているか、振り返ってみることも授業改善につながります。

今日話し合った結果は、「〇〇」と「〇〇」の項目でまとめると、休んだ人や他のクラスの人にも理解しやすくなるね。



タブレットだと、たくさん文字を書けるけど、書く内容を精選してまとめた方が、後から自分たちも振り返りやすそうだよ。

恵那市における中学校数学の結果分析

恵那市教育研究所

調査結果

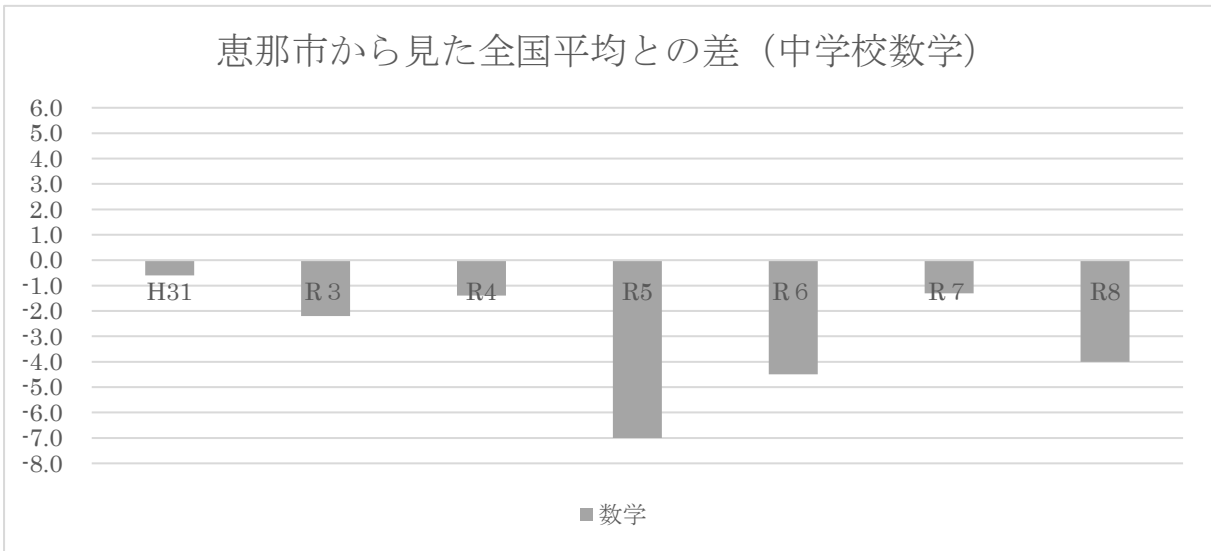
■ 平均正答率

- 恵那市 53%
- 県 59%
- 全国 57%【恵那市から見た国との差 -4】

■ 集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴教育委員会	岐阜県（公立）	全国（公立）
全体		16	53	59	57.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	64.1	68.7	67.8
	B 図形	4	45.0	52.1	48.7
	C 関数	3	48.2	55.4	54.8
	D データの活用	4	51.7	55.6	53.5
評価の観点	知識・技能	12	59.4	64.5	63.0
	思考・判断・表現	4	34.8	41.8	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	58.0	60.8	59.3
	短答式	9	59.9	65.7	64.2
	記述式	4	34.8	41.8	39.1

■ 調査結果の概要



数学において恵那市では、県及び全国の平均正答率を下回る結果が続いています。学習指導要領の領域別に見ると、正答率が最も低いのが「B 図形」で、県及び全国の平均正答率と最も開きがあるのが「C 関数」となっています。また、選択式や短答式に比べ、記述式の問題の正答率が、県及び全国の平均正答率と最も開きがあります。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

4 恵那市の
平均正答率 **42.1%** (全国 : 55.3)

C 関数 知識・技能

反比例の関係を表す表から対応する値を求める問題

下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。□に当てはまる数を求めなさい。

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	...
y	...	□	-6	-12	$\times$	12	6	...

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_chuu_suugaku_kkykf.pdf

問題番号	類型	解答	正答	恵那市	県	全国
4	1	-4 と解答しているもの	◎	42.1	55.4	55.3
	2	4 と解答しているもの		0.3	0.4	0.5
	3	0 と解答しているもの		24.6	14.5	13.6
	4	-3 と解答しているもの		20.1	19.1	18.9
	99	上記以外の解答		11.7	9.5	10.6
	0	無解答		1.1	1.0	1.1

■ 解答の傾向について

反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる問題です。

「C 関数」領域の知識・技能を問う問題において、恵那市の正答率は 42.1%であり、全国平均 (55.3%) を 13.2 ポイント、岐阜県平均 (55.4%) を 13.3 ポイント下回る結果となりました。誤答の傾向を解答類型から分析すると、空欄に入る y の値として「0」と解答した生徒 (類型 3) が 24.6% (岐阜県 14.5%、全国 13.6%) と、全国平均を 11.0 ポイント上回って突出している点が本市の特徴です。また、問題文の条件に示された x の値 (-3) をそのまま y の値として書き写して解答したと推測される生徒 (類型 4) も 20.1% (全国 18.9%) と、全国と同等程度に一定割合存在しています。

以上の結果から、負の数を含む反比例の表において、変化のきまり (規則性) を正しく読み取ることや、比例と反比例の表の特徴を区別して数値を導き出すことにおいて、今後の指導改善が必要であると考えられます。

■ 学習指導に当たって

「比例・反比例」の学習において、基礎・基本となる用語や関数の概念を確実に定着させることが大切です。指導に当たっては、比例と反比例それぞれの特徴 (比例は「 $\frac{y}{x}$ が一定」、反比例は「 xy が一定」) について、具体的な表を用いて生徒自身に問い返しながら

ら繰り返し確認させます。単に公式 ($y = \frac{y}{x}$) への代入による処理を覚えるだけでなく、生徒が表から「 x の変化に伴う y の変化の規則性」を読み解けるよう、表の数値を指で指し示しながら「反比例では、表の縦の列（対応する x と y の値）をかけるといつも比例定数の a （一定）になる」という性質を実感・理解させる活動が有効です。関数の基本的な規則性を、式、表、グラフを密接に関連付けて構造的に捉え直す指導を各学年で定期的に取り入れていきましょう。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

6 (3) 恵那市の平均正答率

38.1% (全国 : 44.7%)

A 数と式 思考・判断・表現

定められた手順に従って 3 桁の自然数 A と B をつくり、それらの差 $A - B$ の値がどんな数になるかについて、選んだ 2 数の差に着目して説明する問題。

次の手順で、2 つの 3 けたの自然数をつくります。

手順

- ① 1 から 9 までの自然数の中から異なる 2 つの数を選ぶ。それを「選んだ 2 数」と呼ぶ。(例 : 1 と 2)
- ② 選んだ 2 数の大きい方を百の位と一の位とし、小さい方を十の位としてできた 3 けたの自然数を A とする。(例 : 212)
- ③ 選んだ 2 数の小さい方を百の位と一の位とし、大きい方を十の位としてできた 3 けたの自然数を B とする。(例 : 121)

手順に従ってできた A と B について、 $A - B$ の値は、選んだ 2 数の差に着目すると、どんな数になると予想できますか。陸斗さんの予想のように、下の口に 当てはまることがらを「～は、……になる。」という形で書きなさい。

手順にしたがってできた A と B について、

(正答の条件)
「○○は、◇◇である。」という形で、次の (a) 、 (b) について記述しているもの。
(a) ○○が、「 $A - B$ 」である。
(b) ◇◇が、「選んだ 2 数の差の 91 倍」である。

問題番号	類型	解答	正答	恵那市	県	全国
6 (3)	1	(a) (b) について記述しているもの	◎	35.2	40.7	40.9
	2	(a) について記述し、(b) についての記述が十分でないもの	○	0.6	0.9	0.8
	3	(a) についての記述がなく、(b) について記述しているもの (b) についての記述が十分でないものも含む)		1.4	0.8	0.7
	4	(a) について記述し、(b) 以外に成り立つ事柄のうち、選んだ 2 数の差について記述しているもの	◎	2.3	3.0	2.8
	5	(a) について記述し、(b) 以外に成り立つ事柄のうち、選んだ 2 数の差について記述が十分でないもの	○	0.0	0.2	0.2

	6	(a)についての記述がなく、(b)以外に成り立つ事柄のうち、選んだ2数の差について記述しているもの（(b)以外に成り立つ事柄のうち、選んだ2数の差について記述が十分でないものを含む）		0.3	0.1	0.2
	7	(a)について記述し、選んだ2数の差についての記述がなく、成り立つ事柄を記述しているもの		0.3	0.2	0.3
	8	(a)について記述し、成り立たない事柄を記述しているもの		8.0	7.6	7.7
	99	上記以外の解答		24.6	20.2	20.1
	0	無解答		27.2	26.4	26.5

■ 解答の傾向について

文字式を用いて数量の関係を表し、着目した条件を基に事柄の特徴を言葉や式で説明できるかどうかをみる問題です。

「A 数と式」領域の記述・説明式問題における恵那市の正答率は 38.1%（類型 1、2、4、5 の合計）であり、全国平均（44.7%）を 6.6 ポイント、岐阜県平均（44.8%）を 6.7 ポイント下回る結果となりました。本問は、選んだ 2 数を a, b ($a > b$) としたとき、文字式を $A - B = 91(a - b)$ と正しく変形し、その結果から $A - B$ の値が「選んだ 2 数の差 ($a - b$) の 91 倍になる」ことを論理的に説明する問題です。解答類型を分析すると、正答の条件 ○○ ($A - B$ の値) と結論 ◇◇ (選んだ 2 数の差の 91 倍) をともに正しく記述できた生徒（類型 1）は 35.2%（全国 40.9%）でした。一方で、文字式を用いた立式や計算、あるいはその先の解釈などでつまずき、想定外の記述や不十分な内容で誤答となった生徒（類型 99：上記以外の解答）が 24.6%（岐阜県 20.2%、全国 20.1%）と、全国平均を 4.5 ポイント上回って高い割合で存在している点が本市の状況です。また、無解答率（類型 0）が 27.2%（全国 26.5%）と高い数値であることから、数式を用いた論理展開の入り口となる「文字を用いた表現や処理の段階」において、更なる指導の充実が必要であると考えられます。

■ 学習指導に当たって

文字を用いた式で成り立つ事柄を記述・説明する力を育むためには、説明の文章構成だけでなく、その土台となる「数量を文字で表すこと」や「等式・整式の計算処理」を確実に定着させることが大切です。指導に当たっては、いきなり全体の記述（作文）を求めるのではなく、以下のスモールステップを意識した段階的な指導を取り入れます。「数量を文字で表す段階」：3桁の自然数 A や B を、文字 a, b を使って $100a + 10b + a$ などと正しく表す活動。「式を目的の形に変形する段階」： $A - B$ を計算して、分配法則の逆を用いて $91(a - b)$ という形を導き出す活動。「変形された式を言葉で解釈する段階」： $91(a - b)$ の $(a - b)$ が「選んだ 2 数の差」であることを読み取り、説明文を完成させる活動。特に、無解答（解答類型 99）で立ち止まっている生徒に対しては、ステップ 1・2 の「立式と式変形の技能」が確実にできるよう、ワークシートに文字式の穴埋め欄を設けたり、計算部分のみを個別にサポートしたりするなどの支援を行います。 また、日頃から「この式の部分 ($a - b$) を言葉に直すと、どう説明できるかな？」と部分的に言葉で問い返し、言葉と数式を日常的に結びつけて考える活動を取り入れることで、筋道を立てて最後まで書き切る力を高めていきましょう。

恵那市における中学校英語の結果分析

恵那市教育研究所

中学校英語は、公開問題（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」で7問、「話すこと」で2問）が平均正答数と技能別平均正答数に集計され、公開問題と幅広い内容・難易度等から出題された非公開問題から IRT スコアが集計されています。

IRT スコアは各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表しています。

※IRT とは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

文部科学省 令和8年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」IRT を用いた結果返却についてより

調査結果

■ 集計結果

平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
恵那市教育委員会	332	3.9 / 9	2.5
岐阜県（公立）	14,385	4.6 / 9	2.5
全国（国公私立）*	46,645	4.5 / 9	2.5

技能別平均正答数集計値

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
恵那市教育委員会	1.1 / 2	2.2 / 5	0.7 / 2
岐阜県（公立）	1.2 / 2	2.7 / 5	0.7 / 2
全国（国公私立）*	1.2 / 2	2.6 / 5	0.7 / 2

IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
恵那市教育委員会	474	113.7	351	396	465	552	619
岐阜県（公立）	506	106.0	373	432	505	578	637
全国（国公私立）*	499	108.1	363	422	498	575	636

IRTバンド集計値

IRT バンド	生徒数	割合（%）		
		貴教育委員会	岐阜県（公立）	全国（国公私立）*
5	13	3.9	5.9	5.7
4	64	19.3	25.9	24.7
3	108	32.5	37.8	36.2
2	117	35.2	25.2	27.1
1	30	9.0	5.2	6.4

* IRT バンドとは、生徒ごとに算出した IRT スコアを5段階に区切り学力がどのように分布しているかを示します。理想的な正規分布となった場合、3が約38%、2・4が約24%、1・5が約7%となります。

文部科学省 令和8年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」IRT を用いた結果返却についてより

■ 調査結果の概要

英語において恵那市では、平均 IRT スコアが県との差はマイナス 32 ポイント、全国との差はマイナス 25 ポイントであり、全国、県を下回る結果となりました。また、IRT バンドでは、県及び全国と比較して低位バンド（バンド1・2）の割合が高く、高位バンド（バンド4・5）の割合が低い傾向が見られました。このことから、学力層の分布が県及び全国よりも低位側に偏っており、上位層の割合が少ない状況にあることが分かります。

技能別平均正答数を見ると、「聞くこと」「話すこと」では県及び全国と同程度の水準を維持している一方、「読むこと・書くこと」において差が見られました。このことから、英語を聞いたり話したりする実践的なコミュニケーション能力は概ね育成されているものの、英文を読み取る力や英語で記述する力に課題があり、そのことが平均 IRT スコア及び IRT バンド分布の結果にも表れていると考えられます。

指導改善のポイント

■ 課題の見られた問題について

課題の見られた問題の概要

6 恵那市の平均正答率 **56.6%** (全国 : 67.3%)

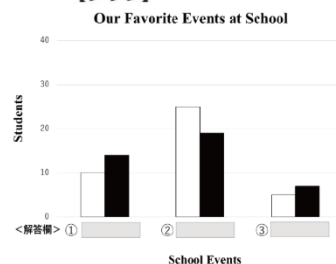
音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているか。

次の【文章】を読み、【グラフ】の中の①②③の に入る学校行事を、下の<選択肢>の中からそれぞれ1つ選び、<解答欄>に移動させなさい。

【文章】

The students in Class 1 and Class 2 chose their favorite school events from the music festival, the school trip, and the sports festival. They like the school trip the best. The sports festival is more popular in Class 2 than in Class 1. Only a small number of students in both classes chose the music festival.

【グラフ】



<選択肢>

School trip Sports festival Music festival

☞設問の詳細はこちらでご確認ください。

調査問題【読むこと/書くこと】https://www.nier.go.jp/26chousa/pdf/26mondai_chuu_eigo_rw_kkykf.pdf

問題番号	問題の概要		解答類型									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9 9	無解答
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	市	56.6	5.8	8.7	11.1	12.8				0.9	4.1
		県	69.4	4.3	4.9	10.2	9.6				0.4	1.3
		全国	67.3	5.4	5.5	9.8	10.7				0.3	1.1
1	◎	①Sports festival ②School trip ③Music festival と解答しているもの										
2		①Sports festival のみ正しく解答しているもの										
3		②School trip のみ正しく解答しているもの										
4		③Music festival のみ正しく解答しているもの										
5		①②③とも正しく解答していないもの										
9 9		上記以外の解答										
0		無解答										

■ 解答の傾向について

6 は、文章を読み取り、グラフの空欄に入る学校行事を選択する問題です。恵那市の正答率は56.6%で、県平均を12.8ポイント、全国平均を10.7ポイント下回っています。解答類型を見ると、「①②③とも正しく解答していないもの」の割合が12.8%と、県や全国を上回っています。また、一部のみ正答した解答類型の割合も比較的高くなっています。

問題番号	問題の概要		解答類型									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
11①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	市	37.3	5.5	0.9	0.6	0.0	1.5	1.5	25.4	1.2	1.7
		県	49.6	7.4	4.9	0.9	0.2	0.9	1.3	17.3	0.8	1.9
		全国	45.2	8.6	5.1	1.0	0.4	0.9	1.3	19.0	1.0	1.8
			11	12	13	14	15	16	17	18	99	無解答
		市	21.3								0.9	2.3
		県	12.0								0.4	2.3
		全国	12.9								0.4	2.5

1	◎	不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの
2	◎	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの
3	○	余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの
4		不規則動詞の過去形を用いているが、主語に誤りがあるもの
5		不規則動詞の過去形を用いているが、be動詞と混在しているもの
6		不規則動詞の過去形を用いているが、語順に誤りがあるもの、または不要な語があるもの
7		不規則動詞の過去形を用いていないが、過去のことを表現しようとしているもの
8		現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答しているもの
9		be動詞と一般動詞が混在しており、どちらも過去を表す形になっていないもの
10		wantを用いて解答しているもの
11		解答類型10までとは異なる誤りがあるもの
99		上記以外の解答
0		無解答

■ 解答の傾向について

11①は、与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題です。恵那市の正答率は43.7%で、県平均を15.2ポイント全国平均を18.2ポイント、下回っています。解答類型を見ると、恵那市では「現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答しているもの」（類型8）の割合が25.4%となっており、県や全国と比較して高い傾向が見られます。また、「解答類型10までとは異なる誤りがあるもの」（類型11）の割合も21.3%と高くなっています。

誤答に至った要因としては、表から必要な情報を読み取ることはできていても、「昨日の出来事」という場面に応じて適切な時制を選択することや、不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で英文を構成することが十分にできていなかったことが考えられます。

■ 学習指導に当たって

『場面や状況を意識して、既習表現を用いて英文を書く活動を工夫する』

今回のような誤答を防いでいくためには、不規則動詞の過去形を知識として理解するだけでなく、実際の言語活動の中で活用する機会を充実させることが必要です。例えば、「昨日したこと」「週末に経験したこと」「学校行事の思い出」などを題材として、場面や状況に応じて時制を選択しながら英文を書く活動を継続的に取り入れることが考えられます。

また、読む活動や聞く活動においても、登場人物が「いつ」「どこで」「何をしたのか」に着目して内容を捉え、その後に既習表現を用いて英文でまとめる活動を位置付けることが有効です。文法事項を個別に扱うだけでなく、実際のコミュニケーション場面の中で繰り返し活用することで、場面に応じて適切な時制や語順を用いて表現する力の向上につながると考えられます。

〈主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況〉

〔児童生徒質問紙の結果より〕

【小学校】

- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は67.2%となっています。これは全国平均と比べて0.8ポイント、県平均と比べて1.8ポイント上回っています。(38)
- ・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は78.1%となっています。これは全国平均と比べて1.3ポイント、県平均と比べて1.6ポイント下回っていますが、ほぼ平均並みを維持しています。(39)
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は86.3%となっています。これは全国平均と比べて0.6ポイント上回っていますが、県平均と比べて0.3ポイント下回っています。(42)

【中学校】

- ・「1、2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかというとき当てはまる」という回答している生徒の割合は68.4%となっています。これは全国平均と比べて2.9ポイント、県平均と比べて1.3ポイント上回っています。(38)
- ・「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に「当てはまる」「どちらかというとき当てはまる」と回答している生徒の割合は80.2%となっています。これは全国平均と比べて1.4ポイント上回っていますが、県平均を4.1ポイント下回っています。(39)
- ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかというとき当てはまる」と回答している生徒は89.2%となっています。これは全国平均と比べて2.2ポイント上回っていますが、県平均と比べて0.8ポイント下回っています。(42)

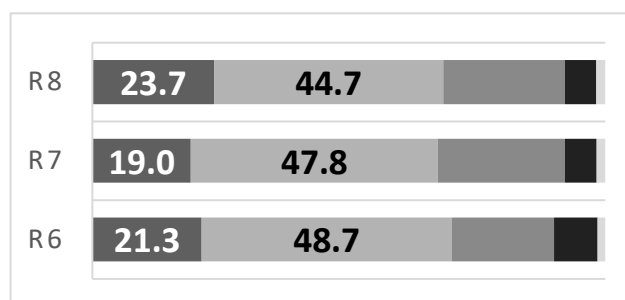
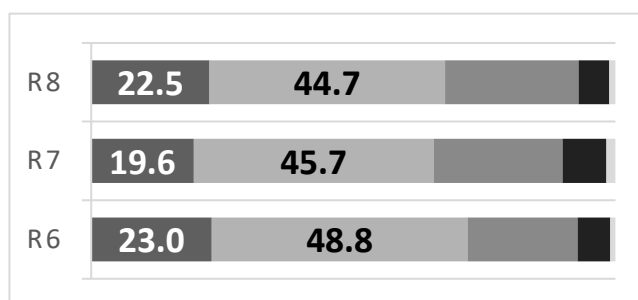
○経年変化の様子から、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善は、横ばいもしくは改善傾向にあるといえます。その中で質問番号38の「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」は、ここ数年の国語の結果で課題が見られた問題とつながる内容です。今後に向けて、国語だけでなく教育活動全般を通して説得力をもたせる離し方について取り組んでいくことが考えられます。

■ 当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまる	■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない	■ その他	■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	3 8	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
中	3 8	

【小学校】

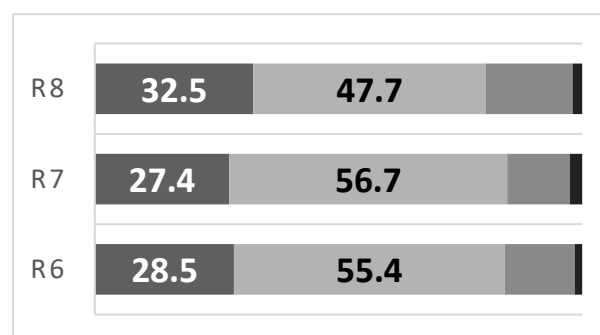
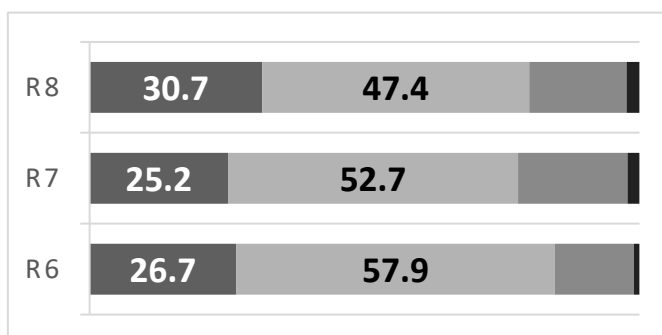
【中学校】



	質問番号	質問事項
小	3 9	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
中	3 9	

【小学校】

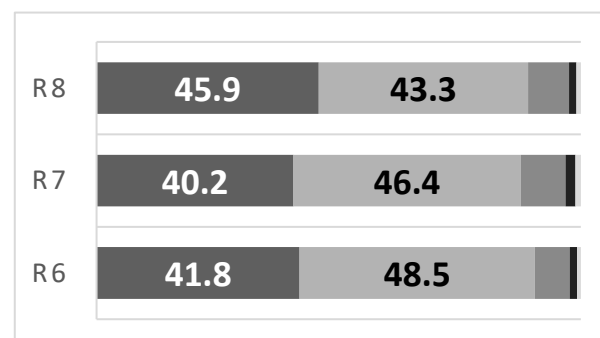
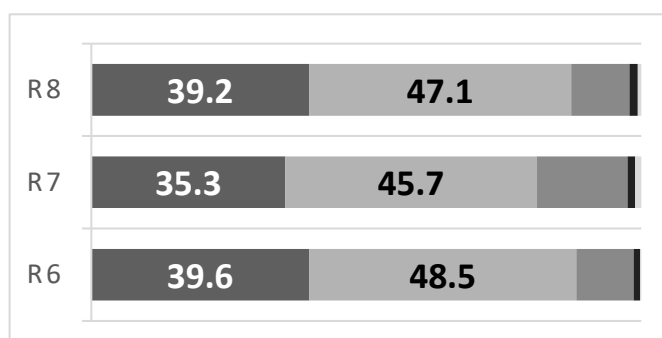
【中学校】



	質問番号	質問事項
小	4 2	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
中	4 2	

【小学校】

【中学校】



〈個別最適な学びと協働的な学びの視点からの授業改善に関する取組状況〉

〔児童生徒質問紙の結果より〕

【小学校】

- ・「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は82.8%となっています。これは全国平均と比べて2.0ポイント上回り、県平均と比べて0.6ポイント下回っています。（41）
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は76.1%となっています。これは全国平均と比べて2.3ポイント、県平均と比べて3.1ポイント下回っています。（43）
- ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は89.2%となっています。これは全国平均と比べて2.2ポイント、県平均と比べて2.4ポイント上回っています。（46）

【中学校】

- ・「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は82.4%となっています。これは全国平均と比べて3.5ポイント上回り、県平均と比べて0.4下回っています。（41）
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は79.2%となっています。これは全国平均と比べて0.2ポイント上回っていますが、県平均と比べて3.7ポイント下回っています。（43）
- ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒の割合は94.8%となっています。これは、全国平均と比べて2.4ポイント、県平均と比べて0.9ポイント上回っています。（46）

○教師による追究場面での「個に応じた学び」の提供、交流場面での多様な意見が大切にされる雰囲気醸成が成果を挙げています。

○質問番号43にある「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」という学習習慣が、経年変化では成果を挙げているものの、県や全国と比較したときに、課題となっています。今後に向けて、家庭学習の内容や、次の授業までに取り組みたい内容を終末でまとめるなどの工夫が考えられます。

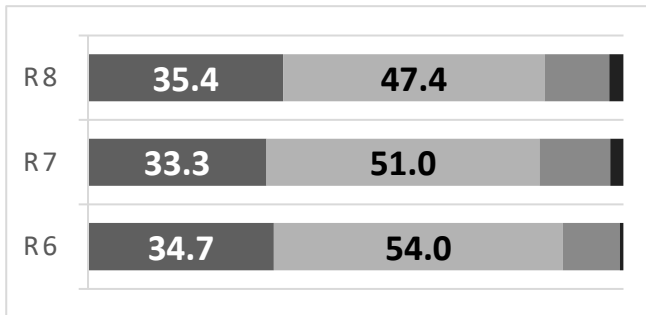
■ 当てはまる
■ 当てはまらない

■ どちらかといえば、当てはまる
■ その他

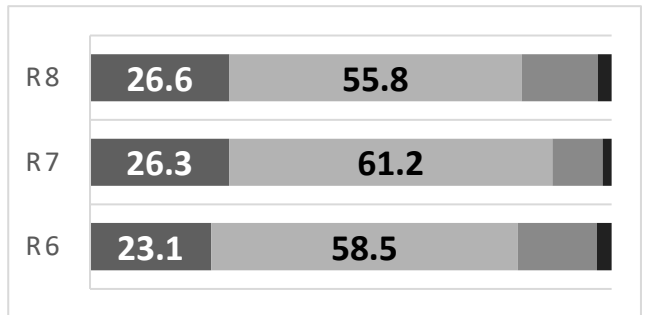
■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	4 1	5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
中	4 1	

【小学校】

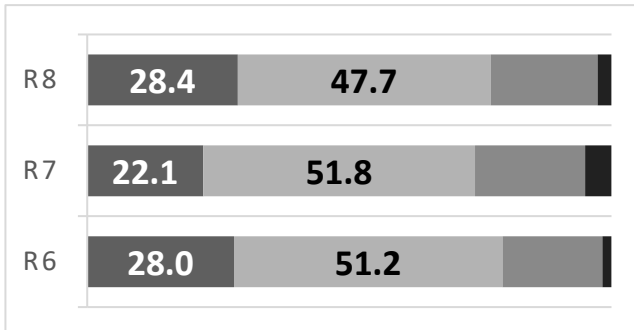


【中学校】

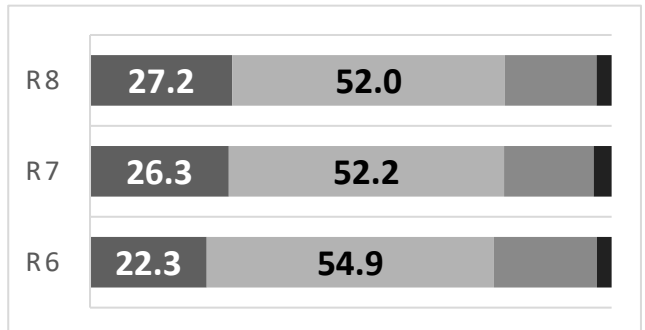


	質問番号	質問事項
小	4 3	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
中	4 3	

【小学校】

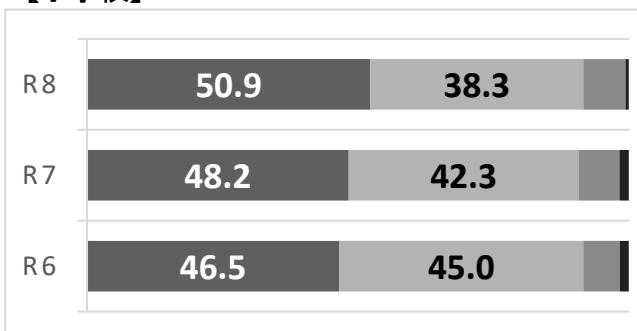


【中学校】

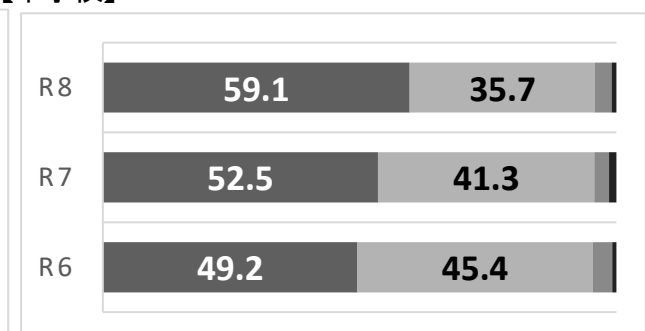


	質問番号	質問事項
小	4 6	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
中	4 6	

【小学校】



【中学校】



〈自己有用感〉

〔児童生徒質問紙の結果より〕

【小学校】

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、今年度は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は 83.3%となっています。全国平均と比べて 2.3 ポイント、県平均と比べて 2.9 ポイント下回っています。（８）
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、今年度は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は 90.9%となっています。これは全国平均と比べて 0.5 ポイント、県平均と比べて 1.2 ポイント下回っています。（９）

【中学校】

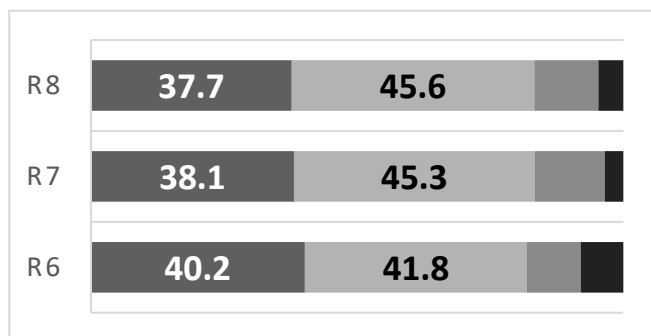
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、今年度は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は 83.4%となっています。これは、全国平均と比べて 0.6 ポイント、県平均と比べて 2.5 ポイント下回っています。（８）
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、今年度は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は 92.4%となっています。これは、全国平均と比べて 1.5 ポイント上回っていますが、県平均と比べて 1.1 ポイント下回っています。（９）

○児童生徒の自己有用感については県や全国と比較すると低い状態ではありますが、横ばいもしくは向上傾向にあり、取組は成果をあげていると言えます。その要因としては、教師による肯定的な働きかけの増加が考えられます。今後に向けて、肯定的な児童生徒理解と効果的な価値付けを意識し、取組を継続していくことが考えられます。

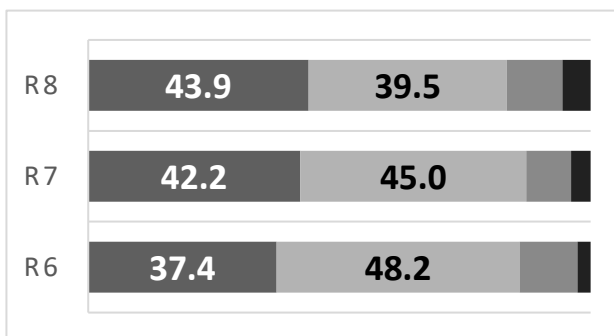
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない
 ■ 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	8	自分には、よいところがあると思いますか
中	8	

【小学校】

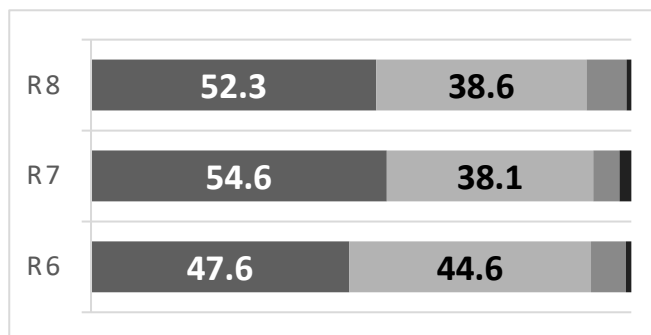


【中学校】

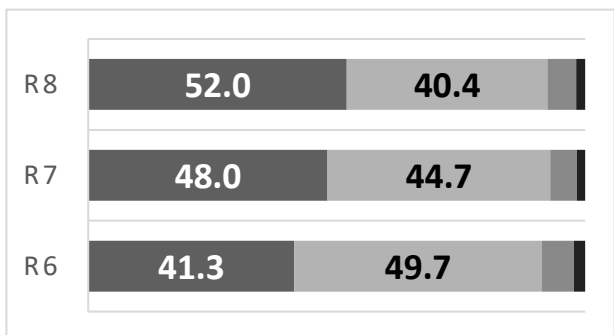


	質問番号	質問事項
小	9	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
中	9	

【小学校】



【中学校】



〈「社会性」等に関わる状況〉

[児童生徒質問紙の結果より]

【小学校】

- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は 93.3%になっています。これは、全国平均と比較して 0.6 ポイント高くなっていますが、県平均と比較すると 0.6 ポイント低くなっています。(11)
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している児童の割合は 96.5%になっています。これは全国平均と比較して 0.3 ポイント高くなっていますが、県平均と比較して 0.6 ポイント低くなっています。95%以上の高い水準を維持しています。(12)

【中学校】

- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒の割合は 92.7%となっています。これは、全国平均と比較して 1.9 ポイント上回り、県平均と同じ値となっています。(11)
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答している生徒の割合は 96.2%となっています。これは、全国平均と比較して 1.1 ポイント上回り、県平均と同じ値となっています。95%以上の高い水準を維持しています。(12)

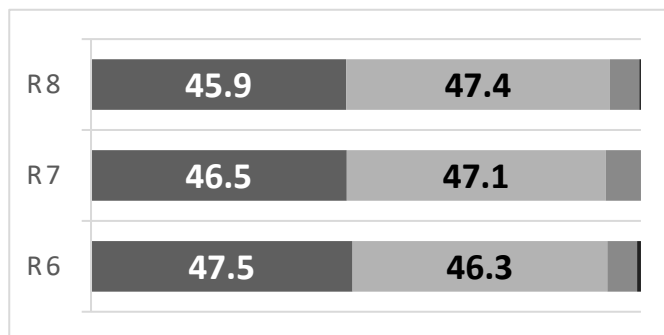
○児童生徒の社会性は高い水準で育まれているといえます。これまでの取組で「困っている人を助ける」という「かかわり」の行動に自信をもっている児童生徒が増えています。

●全体として「人が困っているときに助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけない」という意識が醸成されている児童生徒が多い中で、「人が困っているときに助けていない」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだとは思わない」と考えている児童生徒が若干増えています。今後に向けては認識面で課題を抱えているのか、行動面で課題を抱えているのかを把握し、対象となる児童生徒に個別ケアを実施していくことが考えられます。

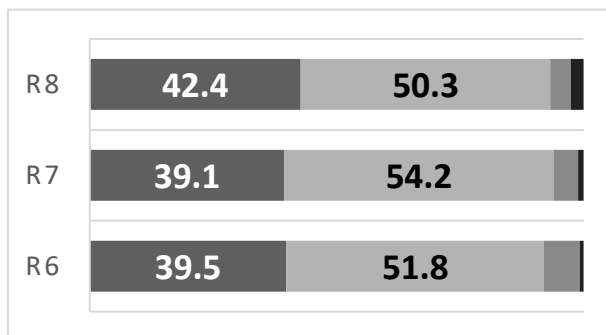
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない
 ■ 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	1 1	人が困っているときは、進んで助けていますか
中	1 1	

【小学校】

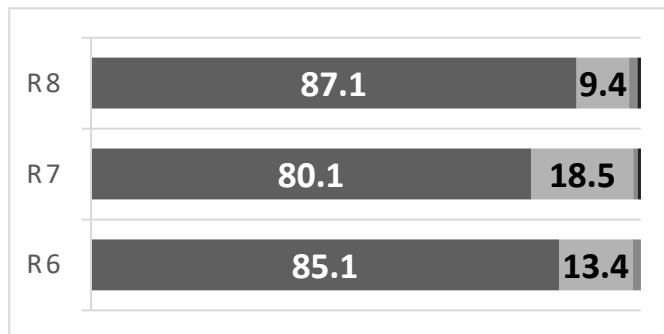


【中学校】

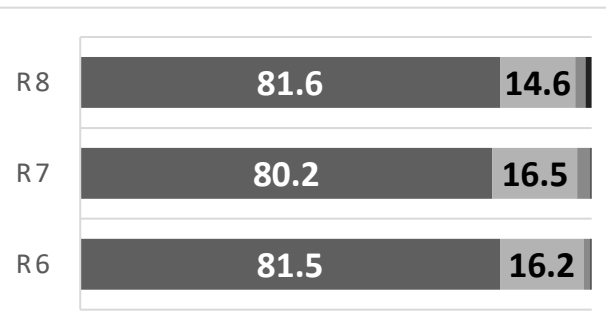


	質問番号	質問事項
小	1 2	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
中	1 2	

【小学校】



【中学校】



〈「郷土愛」等に関わる状況〉

[児童生徒質問紙の結果より]

【小学校】

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、78.5 % になっています。これは、全国平均と比較して 1.6 ポイント、県平均と比較して 1.9 ポイント下回っています。(33)

【中学校】

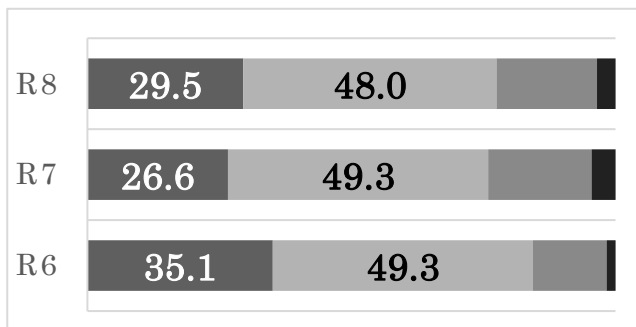
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、69.3% になっています。これは、全国平均と比較して 1.0 ポイント県平均と比較して 4.7 ポイント下回っています。(33)

- 小・中学校で取り組んでいる「ふるさと学習」により児童生徒の恵那市（もしくは自分たちの地域）に対する愛着は育まていると考えられます。しかし、「具体的に自分で何かしてみたい」もしくは「自分たちにも何かできるはず」という思いが課題となっています。この要因として「ふるさと学習」が充実する中で、これまでの「地域を知る」もしくは「地域の人と関わる」だけでなく、「地域の課題について考える」「具体的に取り組む」といった機会が発達段階に応じて取り組まれるようになることで、「既に取り組んでいる」「これ以上、したいことが思いつかない」と考えた児童生徒がいたことが考えられます。今後に向けて、学校ごとに「あまり思わない」「思わない」と回答した児童生徒の思いを把握し、ふるさと学習の改善につなげることが考えられます。

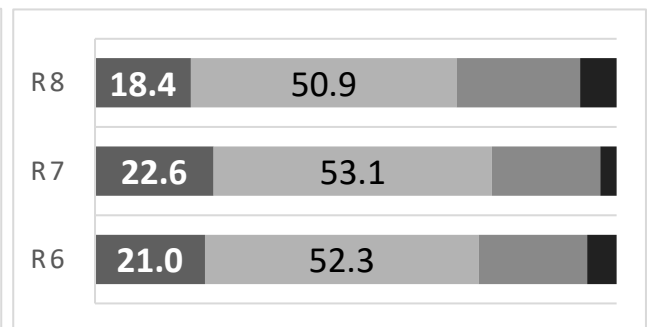
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない
 ■ 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	3 3	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
中	3 3	

【小学校】



【中学校】



〈「主体性」等に関わる状況〉

〔児童生徒質問紙の結果より〕

【小学校】

- ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、78.1%となっています。これは、全国平均と比較して 3.7 ポイント、県平均と比較して 2.8 ポイント下回っています。（10）
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は 95.1%となっています。これは、全国平均と比較して 0.7 ポイント、県平均と比較して 0.9 ポイント下回っていますが、95%以上の高い水準を維持しています。（14）

【中学校】

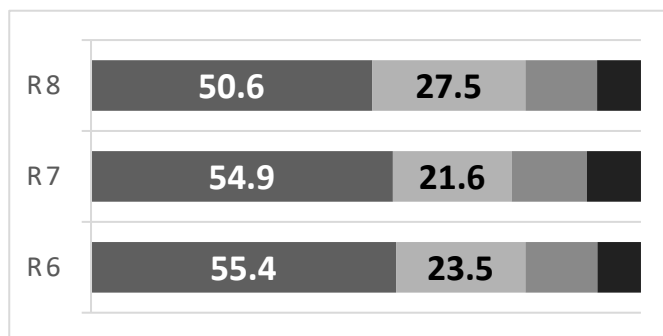
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は、67.9%となっています。これは、全国平均と比較して 0.3 ポイント、県平均と比較して 0.9 ポイント上回っています。（10）
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は 95.9%となっています。これは、全国平均と同じ値であり、県平均と比較して 0.6 ポイント下回っていますが、95%以上の高い水準を維持しています。（14）

- 児童生徒の主体性は向上傾向を維持しています。特に「人の役に立つ人間になりたい」という心情は小・中学校共に肯定的な回答が 95%以上と高い水準を維持しています。これは恵那市が取り組んでいる志教育の成果と考えられます。
- 「将来の夢や目標」については小・中学校共に伸び悩んでいます。今後に向けては、自分の適性や実現可能性にとらわれにくい低学年のうちから、夢や目標を語り合う機会を継続して取り組んでいくことが考えられます。

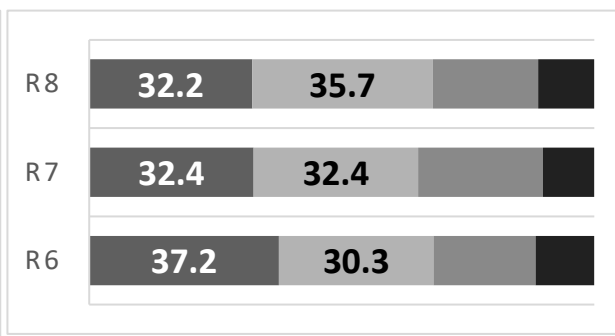
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない
 ■ 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答

	質問番号	質問事項
小	1 0	将来の夢や目標を持っていますか
中	1 0	

【小学校】

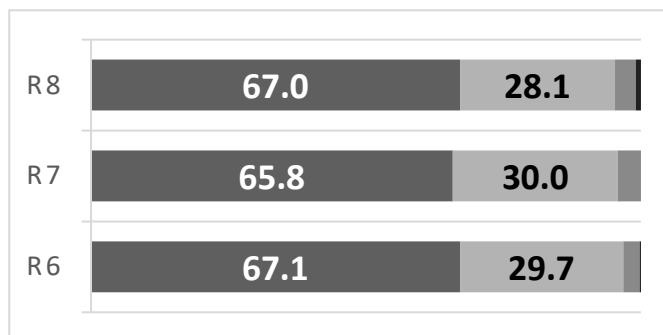


【中学校】

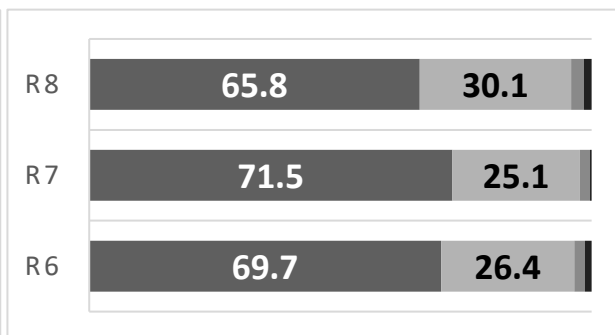


	質問番号	質問事項
小	1 4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
中	1 4	

【小学校】



【中学校】



〈ICTを活用した学習状況〉

[児童生徒質問紙の結果より]

【小学校】

- ・「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」という質問に対し、「ほぼ毎日」と回答している児童の割合は76.7%となっています。これは、全国平均と比較して33.7ポイント、県平均と比較して18.5ポイント上回り、高い水準を維持しています。(35)

【中学校】

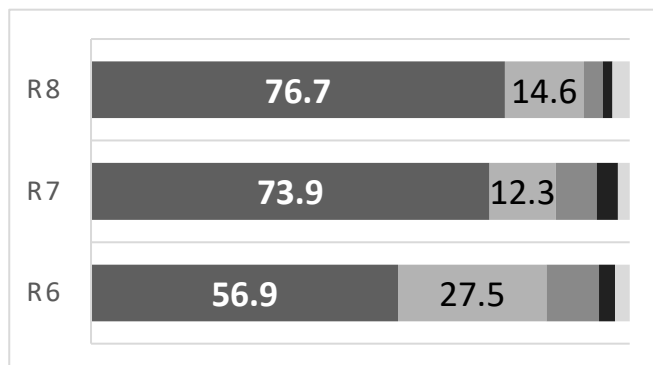
- ・「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」という質問に対し、「ほぼ毎日」と回答している生徒の割合は、88.9%となっています。これは、全国平均と比較して33.8ポイント、県平均と比較して9.8ポイント上回り、高い水準を維持しています。(35)

○ICTを活用した学習状況は、全国だけでなく県と比較しても、小学校・中学校ともに高い使用感を維持しています。

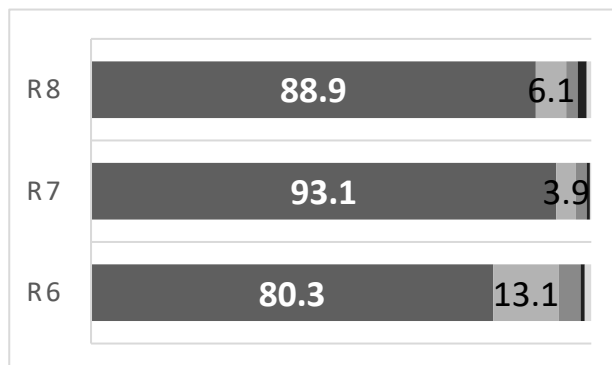
- 高い使用感に対して「PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができる」、「PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができる」、「PC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができる」という質問になると、全国や県との差が小さくなる傾向にあります。今後に向けては「恵那市立小中学校ICT活用推進方針」にある、日常的なICTの活用として、どのような活用を、どの教科の、どの単元で実施できているかを把握し、計画的に多様な活用方法を体験できるようカリキュラムを工夫することが考えられます。

	質問番号	質問事項
小	35	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのI C Tをどの程度使用しましたか。
中	35	

【小学校】



【中学校】



令和7年度調査から「ほぼ毎日」を「1日に複数の授業で活用」と「1日に1回くらいの授業」の2つに分けて質問しています。今回の分析は経年比較のため、合わせた数値で集計しています。

- | | | |
|-----------|------------------|--------------------|
| ■ 当てはまる | ■ どちらかといえば、当てはまる | ■ どちらかといえば、当てはまらない |
| ■ 当てはまらない | ■ その他 | ■ 無回答 |

